



TITLE:

質疑應答

AUTHOR(S):

CITATION:

質疑應答. 地球 1926, 6(4): 306-308

ISSUE DATE:

1926-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/183165>

RIGHT:

はミスシツピー溪谷に住み全國農産物の七割七分、工業品の五割二分を産す、農産物とは玉蜀黍、小麥、黃麥、大麥、ライ麥、麻種子、米、馬鈴薯、甘藷、乾草、棉花、棉種子、煙草、コーンソルガム、落花生、蔗糖、甜菜糖、森林、食用獸の類にして鐵産物亦少からず、石炭、鐵、石油に乏めり、從つて人口二十五萬以上の重要都市十を數ヘシカゴ、クリブランド、セントルイス、ピッツバーク、シンシナチ、の如き何れも五十萬以上の大都たり、ニューオルリアンス、ミネアポリス、カンサスシテイ、インディアナポリス、デングア一等鐵中の錚々たるものなれば本支流の利用は誠に當然のこと、いふべく目下ニウオルリアンスに於て河口より百十哩の河道の代りに運河六十五哩を作りそれより上流シカゴに通する間に完全なる運河計劃を建つるに至れり、同時に各支流を淺濶して水路系統を整理しニウオルリアンス、デュルル、シカゴ間千五百哩、ピッツバーク、カンサスシテイ間千六百哩の二大幹線を開き十年以内に何れも九呎深水路となさんと計劃しつつある也。(藤田)

○スエズ運河通航船舶數

一九二五年中の通航船舶數は運河開通以來の最高レコードで五千三百三十七隻、この登録噸數二千六百七十六萬一千九百三十五噸の多きに上つた。今左に國別比較を表示する。

英國	三〇九隻	一、〇六六、四九噸
和蘭	五二六	一、六九九、三三噸
德國	三三九	一、七〇一、二三八

質疑應答

佛國	三三	一、六八、三三
伊國	三〇	一、四六、三六
日本	一八	一、〇六、四一
米國	二三	八二、八〇三
諸威	九	三二、六〇〇
丁抹	三	三九、九八
瑞典	七	二二、九〇四
其他(八ヶ國)	二二	四七、一〇九

問 フランスの中央高臺(文檢)

答 概觀、フランスの中央高臺とは國の南東部に偏在し北はLoire川、東はSaône川及Rhône川の溪谷に限られ、南は地中海岸及之に注ぐAude川の平地にして西はGaronne川の低地なり、佛國中央運河はこの高臺の北端を横斷し Canal de Midi は同じくこの臺地の西南端を限る。

蓋しこの高臺は佛國地勢の中核にして地質は始原代及古生代の結晶片岩より成り、斷層、傾起の作用をうけたるものにして一大 Tilted Block とも云ふべく、ローヌの溪谷に急斜面の斷層崖を現はし、それより西の方へ Gentle slope をなして傾けり、この傾起せる部分を Cevennes 山脈と云ひ之をローヌの谷より見るさきは一大山脈をなせとも西より之を見れば緩斜の臺地たるに過ぎず、然るにこの高臺の北西部に Auvergne

の火山群の噴出ありて海抜凡そ一千米前後の花崗岩の基盤の上に聳えたり、これらの火山は其基盤の上に於て高さ一五〇米乃至六百米を高めたるに過ぎず、圓錐狀の小火山に富み、方言にて Puy と稱せらる、美はしき火口湖、著しき熔岩の流れ、さては温泉、鑛泉等の噴出するもの少からず遊客四時絶えず Auvergne 火山の如き火山岩地を外にして、中央高臺には古生層の石灰岩より成る所あり Cusages として知らる、カルストの風景あり Tarn 川及 Lot 川の如く西流して Garonne 川に入るものは其浸蝕深くして Gorge の景に秀でれども生産貧弱なるを免がれず、これに反して北方に流下する Loire 川及 Allier 川の溪谷は火山噴出物の灰砂がこの地方の卓越西風に運ばれて堆積せる所なれば地味肥沃にして農産物多し、中央高臺の餘勢は北東に延びて、Seine 川と Saône 川との分水界をなす、これを Langres の高地とす、但しこの高地の地質は三疊紀以後の水成岩にして、中央高臺よりも新しき部に屬せり、又 Langres の東北にあたりライン斷層谷の西に連る Vosges 山地も亦地勢上其餘脈たるは疑ふべからず。

細説、一口に Cevennes なる仔細に地勢を按ずるに多くの山脈より成立し、南西端に四百呎の黒山あり、それより北東に走りて L'Espignous 山塊となり更に東して Garfigne 前山となる、この一列を以て地中海斜面平野と中央高地の境となすセヴァンヌ本部は Garfigne の後方即北方に聳えて東北に走り Mézenc (五千呎) の火山岩地方に連る、Mézenc 山塊より更に北に及ぶものに Lyonnais の連嶺ありローヌ川に並

質疑 應 答

行して其の西壁となり中央運河に達す、かくてセヴァンヌ山脈の東は卒然としてローヌ川の溪谷に急斜すれども、この山脈の西及北は平均一千呎乃至三千呎の高臺をなし、こゝに Auvergne, Cantal, Haute Loire, Forez, Limousin 等の諸山塊あり、オーベルヌを盟主とす、然しこの中央高原は、主として二個の深谷によりて三分せらる、即一は上部ローヌにして、一はローアルの支流 Allier 川なるが、後者は前者よりもこの高原を走ること長くして且つ深く其水源は何れも Cevenne 山脈の南斜面に出て、間もなく折れて北走せり、オーベルヌ高臺は主として花崗岩、片麻岩、雲母片岩等始原代の岩層及古生層よりなり、前記二川によりて三部に分たる、即ローヌ川とローアル川上流との間には北部に St. Etienne を中心とせる石炭紀の石炭埋藏の鑛業地あり、其南には大なる粗面岩の噴出せる Mont Mézenc (一七五四米) あり、Le Puy 市の南に聳えたり、ローアル川とアリエール川の間にある臺地には休火山多く噴出し Boves 山脈を主峯とし、アリエール川の西岸には Montgarde の花崗山地あり北西の方向に走る、この山地は更に其の西部に於て北は Mont d'ors より中央の Mont Cantal 及南部の Mont d'Aubrac なる火山噴出地方によりて限らる。この最後の火山現象は佛國にては第三紀中新世に於て著しく活動したるもの、如く、比較的近世まで其餘波を止めたり、玄武岩質熔岩の分布をはじめ、凝灰岩の分布廣しオーベルヌに於て、これらの火山研究に尤も都合よき地點は Allier の溪谷の口にある有名なる Clermont 市の附

近にして、こゝにては凡そ七十個の圓錐火山あり、南北二十哩の間に列をなして存す、方言かゝる圓錐火山を *puy* といふ、この火山は實に花崗岩及片麻岩より成れる中央高臺の上に噴出せるものにして、火山の基盤には所々に淡水湖性の古生代の水成岩にして可なり部の厚きもあり、*puy* は東方アリエール川と西方 *Sioule* 谷との間に擴がり、其西は *Limagne* の豊沃なる臺地に移る、*puy* の地方は主として火山噴出物より成り多くは火口を完全にのこすもあれど火口の破れたる壁より熔岩の流出せるものなごありて、熔岩の上には僅に灌木を生ずる荒地をなせるものあり、方言これを *Chênes* といふ、この小火山地の盟主はかの *Puy de Dôme* と稱する火山にして、*domie* と稱せらるゝ粗面岩よりなり、圓丘の高さ海拔四八〇五呎其の基盤の高さは海面上二六〇〇呎の地にあり玄武岩床の過去の熔岩の流れをしめすもの *Limagne* の地方に廣がり、浸蝕をうけて其頂上は卓狀をなせる多くの孤立山地とされるもの多しとせばクレルモン^{クレルモン}の南東に存する *Croix de la Vierge* の臺地(高二四〇米)の如き其の一例にして、*ジュリアス* シンゲトリクスの要塞都城は實にこの臺地の上に存したるなり。

モント・ド・レームの南 *Mont Dore* の勝地あり其主峰 *Pic de Sancy* も亦粗面岩の火山岩にして高海拔六一八〇呎に達す硫黄明礬の産地にして、附近に温泉及礫泉多し(地球二巻第一號佛國モントールを見よ) *Cantal* も亦其南にあり

て中央を *Plomb de Cantal* (六〇二五呎)といふ、この火山の周囲は凡九十五哩に達し、過去中央火口より玄武岩熔岩四方に流下したる跡あり、河流又この中心より放射狀に流下せり、*カンタル* の南を限る谷を *Tuyere* 川といひ、川を隔てゝ更に其南に *de Aubrac* の火山群あり。

さきにのべたる、*ロアル川* の東、換言すれば *Marguerite* の始原代の山地の東に於ても新時代の火山の噴出あり、かの *Mont Mezenc* (五七五呎)はその一にして *ロワール川* の西に存する條縞層の上に噴出せる ^{フイニエール} 熔岩又は *Clansone* の火山にして玄武岩又は礫岩質熔岩の噴出せる區域はこの附近に廣し *アリエール川* と *アール川* との間 *Le Puy* 市に近く *La Denise* の凝灰岩は *ハイエナ*、*リノセロス*、象其他 *Pleistocene* 又は *Pliocene* の哺乳類の化石を産することゝ於て有名なり *M. Aymard* はこの層中に於て二個の人類化石を發見し一時學界の論争を惹起したることあり。(藤田)